概　　説

平成 30 年度は全国各地での豪雨や地震などの自然災害で多くの被害が発生した年でした。京都でも休校措置が取られるなど豪雨による被害が発生し、あらためて自然災害に対する対策が注目を集めた年であり、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、国は昨今の児童福祉法の改正や福祉課題への対応、子育て支援機能の充実などの期待を踏まえ、地域の子ども・子育て支援に資する児童福祉施設としての児童館の更なる機能充実を目指し、「児童館ガイドライン」を平成 30 年 10 月に改正し、各自治体あてに通知した。このガイドラインは、児童館の機能を「地域性」「多機能性」「拠点性」の 3 点に整理した上で、遊びを中心とした児童の健全育成を活動の中心に据えながらも、子どもや家庭、地域の様々な福祉課題に対して、児童館がより積極的に関わる視点を持つことの重要性を指摘している。連盟では事業推進委員会において児童館の拠点性に着目し、「継続すること」をテーマに各ブロックで「活動指針研究会」を開催し、活動の継続性や施設の拠点性について多くの職員の参加の中で検討を加えた。さらに、「子どもがつながる児童館実践―あそび×ソーシャルワーク　児童館的アプローチを考える―」と題したシンポジウムを開催し、地域の福祉課題と児童館活動を結び付けて活動展開している先進的な市内の児童館の実践をこの取組を通して共有し、今後の活動の可能性を展望した。

一方、児童館事業を担う人材確保の課題が顕著にその度合いを増してきている。人手不足は福祉の分野に限ったことではなく、全産業にわたっており、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は 1996 年をピークに現在では既に 1 割ほど減少し、今後 30 年であと 3 割減少すると推定されている。連盟では厚生労働大臣の許可を受け、全国初となる児童館・学童保育所に特化した無料職業紹介所として「京都市児童館人材マッチングセンター」を開設した。また、大学生を対象にした、児童館の職業としての魅力を体験できる「インターンシップ事業」の平成 31 年度開始を目指し、連盟と京都市、2 つの市内の大学と連携協定を締結した。今後は人材確保につながる関係機関や大学等と有機的に連携を図り、施設長会の協力も得ながら児童館の職業としての魅力を強力に発信していくことを目指す。

「子ども・子育て支援新制度」が 4 年目を迎え、学童クラブ登録児童の増加の中で、児童館・学童保育所が様々な工夫をしながら運営しており、人材の確保と共に、いわゆる「分室」や「施設外クラス」など、学童クラブ事業の実施施設の確保が大きな課題となっている。

これらの課題が山積する中で、児童館事業を担う者には期待と同時に施設運営の透明性と説明責任がより一層、厳しく問われる状況となりつつあることを自覚したい。

Ⅰ 健全育成・子育て支援事業

１ 各委員会活動

(1)事業推進委員会

１ 平成３０年度 事業目標

本委員会は、「京都市児童館活動指針」（以下「活動指針」という。）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを目的として、２９年度の活動を踏まえながら、引き続き「活動指針」への理解・浸透を深める活動を実施する。また、指定事業である「中高生と赤ちゃんとの交流事業」については改めて理念や意義を再確認できる研修会を行う。

２ 平成３０年度 活動報告

①「活動指針」研究会

事業目標に基づき、１１月に全７ブロックに於いて「活動指針」研究会を開催した。今年度は「継続すること」を全体テーマとし、児童館の０歳～１８歳を対象とする施設特性や学童クラブにおける高学年まで含めた継続的な支援等に着目し、「思春期児童への取組」、「自由来館児童（小学生）への取組」、「乳幼児とその保護者への取組」、「学童クラブ事業」、「地域福祉促進活動」の５つのテーマに沿って、各ブロックからの事例報告を基に活動指針の内容に即しているかどうかを振り返った。

「活動指針」研究会では、全体テーマを設定することで、７ブロックの事例報告及び分散会において基本となる柱が設定でき、「議論の方向性がわかりやく話がしやすい。」という参加者の声が多くあった。今後の研究会においても全体テーマの設定は引き続き行っていくこととした。

②「中高生と赤ちゃんとの交流事業」

事業がスタートしてから１５年が経過した「中高生と赤ちゃんとの交流事業」について、その理念や意義を改めて振り返るための研修会を開催した。中高生として参加していた元参加者に当時の思いや大人になってからの思いなどを話してもらう機会を作ることで、この事業の成果を知る機会となった。

③「子どもがつながる児童館実践～あそび×ソーシャルワーク 児童館的アプローチを考える～」

今回の研修会では、「子どもがつながる児童館実践～あそび×ソーシャルワーク 児童館的アプローチを考える～」と題し、先進的な取組で全国的に評価を得ている実践についての報告や実践者を交えてのミニシンポジウムを行い、その事業の詳細や経過を知る機会を作ることができた。

平成３０年度 活動実績

月	活動内容	委員会　／　会議等
４月		第１回正副委員長会議（４／１７）
５月	年間活動計画決定	第１回委員会（５／１６）
６月	第１回「中高生と赤ちゃんとの交流事業」研修会（６／２９）	第２回委員会（６／７）
７月		第３回委員会（７／１０）
８月	研究会に向けての事前打ち合わせ（全７ブロック）	研究会事前打ち合わせ（５Ｂ：８／３０）
９月	↓	研究会事前打合せ（３Ｂ：９／３　４Ｂ：９／１２）
10月	↓	第２回正副委員長会議（１０／３） 研究会事前打合せ（７Ｂ：１０／４　２Ｂ：１０／１０　１Ｂ：１０／１１　６Ｂ：１０／１２） 第４回委員会（１０／１６）
１１月	「京都市児童館活動指針（第３次改訂版）」研究会（全７ブロック）	研究会（３Ｂ：１１／８　５Ｂ：１１／１２　２Ｂ：１１／１５　１Ｂ：１１／２２　６Ｂ：１１／２６　７Ｂ：１１／２９）
１２月	↓	研究会（４Ｂ：１２／３） 第５回委員会（１２／１９）
１月	「こどもがつながる児童館実践 ～あそび×ソーシャルワーク児童館的アプローチを考える～」　（１／３０）	
２月		
３月	「京都市児童館活動指針（第３次改訂版）」研究会 報告集の作成に向けた話し合い	第６回委員会（３／１２）

(2) 処遇・施設委員会

1　平成３０年度 事業目標

平成２７年度にスタートした「子ども・子育て支援新制度」の下で、登録児童数の増加とクラス毎の支援の実施により、施設外クラスが増加する傾向が続いている。施設外クラスのために使用している施設の中には児童の生活の場となることを想定せずに作られた施設もあり、子どもたちの健全育成に関して充分なものとは言えない点も浮かび上がってきた。このような現状の中で、今年度は、子どもの視点で施設の在りようを考えたときにどのような改善が求められるか、という観点で調査活動を行い、その結果を平成３１年度以降の予算要望に反映させていく。

2　平成３０年度 活動報告

(1) ５月１日　第１回委員会

＊平成２９年度より引継ぎ事項の確認。

＊子どもの視点に立った施設の改善に関する調査活動の提案。

(2) ７月３日　第２回委員会

＊平成３０年度委員会における要望項目について決定。

①職員の処遇について

・職員処遇の抜本的改善

・住居手当と扶養手当の支給

・超勤手当の年間限度時間数拡大と区分の廃止

②１クラス運営に係る職員配置と施設の状況について

・１クラス運営における正規職員の配置基準の見直し

・分室及び施設外クラスにおける副館長相当の職員配置

・分室及び施設外クラスにおける共有スペースでの運営改善

③施設改善について

・トイレのバリアフリー化、男女別化、洋式化を含めたトイレ環境の整備

・施設の防犯と老朽化対策

・子どもを個別対応するスペースの確保

＊「より良い施設づくりのためのチェックシート」（以下「チェックシート」という。）作成。

今年度の事業目標である、子どもの視点で施設の在りようを考えたときにどのような改善が求められるかを検討した。その結果、チェックシートを作成し、そのチェック項目を基に施設の状況を振り返ることで、子どもの視点に立った施設の改善を促していく点について確認した。

チェックシートの項目立てを行うに当たり、「子ども育成」、「子育て家庭支援」、「安全管理」、「地域」、「その他」 の計 5 つのカテゴリーに分け、各ブロックでそれに応じた項目内容の意見集約を行い、進めていくことで一致した。

＊処遇・施設委員会からの要望項目は予算対策特別委員会に送られ、９月１２日京都市に提出された。

(3) １１月１９日　第３回委員会

＊チェックシート作成のための意見集約の結果と内容の検討。

チェックシートを作成するに当たり、処遇・施設委員が各ブロックが意見集約を行った結果を事務局が取りまとめ、その内容を基に委員会の中で検討した。集約された内容からの各委員の意見を踏まえたチェックシート（案）を事務局が作成し、第４回委員会までに完成させて発出することとした。

(4) ３月２５日　第４回委員会

＊平成３１年１月に「より良い施設づくりのためのチェックシート（最終案）」の策定。

同年３月にアルファオフィスに掲載し、その旨を各館所に周知した件について確認した。

＊第３回予算対策特別委員会の報告について。

標記委員会の中で、要望項目に関する京都市からの回答について報告があったため、処遇・施設委員会の場でも報告を行った。

＊平成３０年度活動報告と平成３１年度活動計画について。

第３回予算対策特別委員会の報告を受けて、児童館・学童保育所がこれまで積み上げてきた子ども・子育て支援のあり方を維持していくためにも、要望を続けていく点について確認した。

(3) 予算対策特別委員会

1　平成３０年度 事業目標

予算対策特別委員会は、連盟理事会の諮問機関として、理事会が京都市に働きかけるための要望書を起案し、京都市の児童館・学童クラブ事業を安定させるための制度・政策の向上と予算対策活動の推進を行う。

各専門委員会の意見・要望等を横断的に聴取・集約することで実情に合った要望をすくい上げると同時に、京都市児童館活動指針の十分な推進を旨として予算要望が策定されるよう委員会活動を行う。

2　平成３０年度 活動報告

(1) 7月１２日　第１回　委員会

・年間スケジュールの決定

(2) 7月２７日　第２回　委員会

・各専門委員会からの要望事項の集約

・平成３１年度京都市予算に対する要望書（案）の検討

(3) 8月９日　第４１回　理事会において要望書（案）の提示し承認を受ける。

（以下要望骨子）

Ⅰ最重点要望

①学童クラブ面積基準の速やかな達成

②一元化児童館 130 館の枠にとらわれない積極的かつ柔軟な対応

③高い離職率を改善するための職員処遇の抜本的改善

④活動指針に基づく児童館事業の円滑な実施のために必要な事業費の確保

⑤学童クラブ１クラス運営の児童館における正規職員４名体制の復活

Ⅱ重点要望

①事業の実施状況に応じた事業費加算制度のより一層の充実

②職員確保と定着の観点から、住宅手当・扶養手当の創設

③分室及び施設外クラスの施設環境の整備及び副館長的職員の配置

④超過勤務手当枠の拡大と柔軟な運用のために必要な措置

⑤多様化する放課後対策の中にあって、一元化児童館における学童クラブ事業の京都市の位置づけの堅持

⑥障害のある児童の登録人数が増加する中での介助ボランティアに対する謝金単価引上げと交通費の創設

Ⅲ要望

①経年劣化の危険性がある既存の非常通報システムのあり方の見直し

②個別対応が必要な子どものために必要なスペースを確保するための施設増改築の検討

③地域の子育て支援・健全育成の拠点として多様な市民が来館されることを踏まえたトイレの整備(様式化・バリアフリー化を含む)

(4) 9月１２日　「平成３１年度京都市予算に対する要望書」の京都市提出

(5) 2月１２日　要望に対する回答

平成３１年度京都市児童館・学童クラブ事業関係予算案についての説明が、連盟三役に対してなされた。

〇平成３１年度予算概要

①児童館・学童クラブ事業等

・学童クラブ事業の充実　予算額　【4，２０６，４５３千円】

昨年　【4，１４１，２２３千円】

・クラス担当職員・子育て支援員の時給単価引上げ（900 円→950 円）

②既存児童館整備　予算額　【６２，６６０千円】

京都市安井児童館移転新築

京都市楽只児童館移転整備実施設計

その後、懇談の場に於いて、京都市財政が厳しい中、「学童クラブ事業の充実」予算額充実については大いに歓迎すると共に、基準に基づいた運営を行うための実施場所の確保等について引き続き努力いただきたいと要望した。

特に、クラス担当職員・子育て支援員の時給単価引上げについては、児童館における人材確保が大きな課題となっている現状の中で、大きなアドバンテージとなると感謝の意を示すとともに、引き続き職員処遇の改善に向けて取り組まれるよう希望する旨を伝えた。

(6) 3月１９日　第3回　委員会

・「平成３１年度京都市予算に対する要望書」に対する京都市回答の報告

・平成３１年度委員会活動予定案の決定

(4) 研修委員会「２　児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「３　障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「５　広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2018 実行委員会「６　京都やんちゃフェスタ２０１８の開催」の項を参照。

2　児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

1　平成３０年度 事業目標

・「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施する。

・「中堅職員派遣研修」については、今本研修の重要性を認識し、より多くの職員が参加できるように努めていく。

2　平成３０年度 活動報告

(1)委員会（年間５回：４月、６月、７月、１２月、３月）

・行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告。

・全７ブロックで実施する実技研修とブロック企画研修の立案、企画、事後報告。

・京都市児童館・学童保育所職員研修体系の改定。

(2)研修会

①行政研修

平成３０年度は、事業計画で示した年間２５回の研修会を開催した。

各研修会の企画から実施にあたっては、現在の児童館・学童保育所職員が必要としるスキルの修得、実際に活動に生かしていける内容となるように心掛けた。

幅広い見識を持った職員の養成を図るための「中堅職員派遣研修」では、参加した職員と研修者を受け入れた施設長が、どのような成果と課題を得たのか、より具体的に振り返ることができるよう、研修終了後の報告会においては、報告だけでなくグループワークも取り入れて内容を深めることができた。

②（一財）児童健全育成推進財団への派遣研修

応募者が募集定員に満たない研修もあり、平成３１年度は積極的な参加を促すよう各館所へ発信が必要である。

①行政研修　※（　）は外部受講者人数

実施日	科　目	講　師		受講者数
4 月 24 日	健全育成論	國重晴彦	京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援　統括監	113 人 （内 34 人）
4 月 24 日	児童館論Ⅱ	小倉真由美氏	新林児童館　館長	77 人 （内 2 人）
4 月 25 日	児童館論Ⅰ	波多野里美氏	ももやま児童館　館長	83 人 （内 6 人）
4 月 25 日	京都市の児童館・学童クラブ事業	花田祥子氏	京都市山階児童館　館長	121 人 （内 42 人）
5 月11～25 日	救急法「普通救命講習Ⅲ」	消防署救急係	京都市消防局　各行政区	147 人 （内 47 人）
29 日	安全指導・安全管理	大矢紀昭氏	京あんしんこども館　センター長	176 人 （内 71 人）
6 月 5 日	実技研修　児童文化財活用法	髙橋司氏	佛教大学　教育学部　教育学科　教授	23 人

6 日	実技研修　野外活動	長谷川昭氏	京都府シェアリングネイチャー協会	31 人
7 日	実技研修 身体表現活動	磯道知江氏	劇団むむのこ 代表	33 人
13 日	実技研修　ゲーム・運動遊び	丸岡敦子氏	城南児童館　館長	36 人
15 日	実技研修　科学遊び	辻礼史氏 中井祥平氏	京都市青少年科学センター　主任主事 京都市青少年科学センター　主任主事	34 人
20 日	実技研修 音楽表現活動	安藤正彦氏	京都音楽センター	35 人
21 日	配慮を要する児童の対応	朝比奈覚順氏	大谷大学 文学部 教育・心理学科 教授	134 人 （内 19 人）
26 日	障害のある児童の統合育成Ⅰ	高畑脩平氏	白鳳短期大学　講師	194 人 （内 80 人）
28 日	実技研修　造形表現活動	田中道男氏	和紙切り絵作家	35 人
7 月 19 日	児童文化財活用法2	浜崎由紀氏	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 講師	59 人
9 月 27 日	施設長研修	山本陽子氏	㈱ケア・ビューティフル 代表取締役	106 人 （内 2人）
10 月 23 日	個別援助技術　講義・演習	武田康晴氏	華頂短期大学　幼児教育学科教授	154 人 （内 22 人）
11 月 16 日	障害のある児童の統合育成Ⅱ	岡崎達也氏	京都市児童福祉センター―発達相談所発達相談課　総合支援担当係長	147 人 （内 86 人）
11 月 8 日～12 月 3 日	児童館・学童クラブ活動研究Ⅱ(活動指針研究)			304 人
12 月 10 日	人権研修	安保千秋氏	都大路法律事務所　弁護士	120 人 （内 46 人）
2 月 1 日	児童の発達理論（思春期）	齊藤誠一氏	神戸大学大学院　人間発達環境学研究科　准教授	154 人 （内 58 人）
3 月 1 日	上級研修			24 人

9月5日～19日	中堅研修	中堅職員派遣研修		24 人

1月21日・28日		チームマネジメント研究	安田美予子氏	関西学院大学 人間福祉学部社会福祉学科 教授	51 人
5月 30 日	中堅派遣研修	中堅研修事前説明会			48 人
7月 20 日		中堅職員派遣研修オリエンテーション	前川修氏	京都市児童館学童連盟 研修委員会 委員長	47 人
10 月 30 日		中堅職員派遣研修事後研修会			24 人
11 月 2 日		中堅職員派遣研修施設長報告会			23 人

※ブロック企画研修（「児童館・学童クラブ研究Ⅰ」

ブロック	実施日		講師		受講者数
1	7 月 12 日	本に出会える児童館・学童保育所になるために	花田睦子氏	えほん館　代表	32 人
	1 月 16 日	伝承遊びを学ぶ	乾所長、山崎館長 森館長、上羽厚生員 石黒厚生員	施設長、厚生員	31 人
2	9 月 20 日	片付け上手は仕事上手	飯吉昌子氏	嵯峨野児童館　館長	21 人
	1 月 17 日	地域における子どもの居場所づくり	井上方志氏	元蜂ヶ岡中学校　校長	20 人
3	7 月 12 日	子どもの自主性をひきだす片付け・整理整頓とは	藤井三津子氏	整理収納アドバイザー	31 人
	11 月 19 日	広報物を魅力的に作成するために	上川敬洋氏	ﾃﾞｻﾞｲﾅｰｸﾞﾙｰﾌﾟ HAPS	27 人
4	9 月 20 日	乳幼児クラブの保護者同士のつながりの深め方を学ぶ	藤本明美氏	京都子育てﾈｯﾄﾜｰｸ　代表	27 人
	1 月 23 日	発達に課題のある児童への対応について	岡崎達也氏	京都市児童福祉センター 発達相談所　発達相談課	30 人
5	7 月 12 日	児童の心身の発達について ～学童期で培う発達の力と実践との関わり～	長谷川光子氏	葛野児童館館長 臨床発達心理士	23 人
	11 月 9 日	音楽療法を体験しよう	小島恵子氏	日本音楽療法学会認定音楽療法士	20 人
6	7 月 13 日	気になる児童の対応について	北村光代氏 潮田真一氏	連盟　参事 連盟　主任厚生員/統合育成担当	26 人
	11 月 27 日	絵本の読み聞かせ	花田睦子氏	えほん館　代表	27 人
7	7 月 5 日	子どもを伸ばす言葉かけ	橋本麻由美氏	社会保険労務士 日本褒め言葉ｶｰﾄﾞ協会　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	29 人
	11 月 19 日	学童児向けのあそびについて			29 人

②（一財）児童健全育成推進財団への派遣研修

実施日	研修名	場　所	藤崎真優美受講修学院第二）	
6 月 4 日～7 日	児童厚生員等基礎研修会 （東京会場）	東京都 渋谷区	森田祥悟 千葉広喜 小野田紗弓 興松友梨子 山田萌生	（嵯峨広沢） （葛野） （住吉） （新林） （桂徳）
9 月 11 日～14 日	児童厚生員等基礎研修会 （神戸会場）	神戸市	中村慈 松井美穂 川野大輝 小林瑞葵	（たかつかさ） （西陣） （久世） （川岡東）
10 月 9 日～12 日	中堅児童厚生員等研修会	東京都 渋谷区	山澤淳史 安土真代 山田円	（御室） （向島南） （桂徳）
11 月 28 日～30 日	全国児童厚生員等指導者 養成研修会	東京都 府中市	木戸玲子 松本紀子 坂田亜耶	（修徳） （桂徳） （西京極西）
12 月 16 日･17 日	児童厚生1級特別セミナー	東京都 渋谷区	参加者なし	
2 月 2 日･3 日	全国子どもの健全育成 リーダー養成セミナー	東京都 江東区	宮井真澄 石川勝也 平井麻由美 古田敏惠 髙尾順子	（南大内） （吉田） （嵯峨広沢） （住吉） （大原野）

3　障害のある児童の統合育成事業

1　平成３０年度 事業目標

(1)ノーマライゼーション理念に基づく学童クラブ運営と、児童館・学童保育所職員の統合育成にかかわる専門性の向上を図る。

(2)障害のある児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

2　平成３０年度 活動報告

・発達障害及びその他の多様な障害に関する研修を、講義形式だけではなく施設職員のニーズに対応した研修形態で実施した。

・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については今後も具体的な方策を基に継続して

推進した。

【活動内容】

(1)委員会は年７回開催４月・６月・７月・９月・１１月・１月・２月

・主な案件は、職員研修会・介助者研修会・各研修会の開催について討議

・７月に、京都市発達障害者支援センター「かがやき」の施設見学研修会を実施

・１１月に、京都市立桃陽総合支援学校の見学研修会を実施

(2)研修会の開催

①職員研修会（２回）

「障害のある児童の統合育成Ⅰ」　６月２６日（火）　キャンパスプラザ京都

テーマ：「感覚統合遊びの実際」

講　師：白鳳短期大学専任講師　高畑脩平氏

「障害のある児童の統合育成 Ⅱ」　１１月１６日（金）　ハートピア京都

テーマ：「事例を通して」

講　師：京都市児童福祉センター　総合支援担当係長　岡崎達也氏

②介助者研修会（２回）

「障害のある児童の統合育成①」６月２８日（木）　ひと・まち交流館京都

テーマ：「遊びの指導の実際」

講　師：京都教育大学附属小中学校　教諭 藤村　彰氏

「障害のある児童の統合育成②」１０月４日（木）　アスニー

テーマ：「障害のある子どもと関わるうえで大切にしたいポイント」

討議の柱立て：公益社団法人京都市児童館学童連盟　統合育成担当主任　潮田 真一

研修形態：グループ討議（各グループのコーディネーターは統合育成委員が行う。）

③特別講座　６月１１日（月）　山科区役所　会議室

テーマ「乳幼児の発達について」

講　師：京都市児童福祉センター　総合支援担当係長　岡崎達也氏

(3)統合育成連続講座の開催（５回）…５月・７月・９月・１１月・１月

参加者：児童館長・学童保育所長・児童厚生員・指導員　６１名

テーマ：「発達障害の理解について」等

講　師：京都市児童福祉センター　総合支援担当係長　岡崎達也氏

京都市立北総合支援学校　校長、育（はぐくみ）支援センター　担当教諭

・第三回目は、京都市立北総合支援学校を会場に見学も実施

・最終回終了後、特別講座として２月２６日（火）ひと・まち交流館で「コミュニケーション講座」を開催。

(4)ケース検討会議の開催（１０回）…全体会２回・各児童館：８回

全体会のテーマ：児童館におけるケース検討会（カンファレンス）の持ち方

講　師：京都教育大学准教授　田爪宏二氏・洛西愛育園発達相談員　髙木恵子氏

・全体会は、６月１２日（火）と１月２９日（火）に開催

・ケース検討会議は、７月・８月・９月（２事例）・１０月（３事例）・１月に実施

(5)「課題別実践交流会」（４回）

・第一回「肢体不自由児の理解と支援」７月１７日（火）京都市立北総合支援学校（見学）
　講師：京都市立北総合支援学校　育支援センター教員

・第二回「病弱や難病の児童への対応」１０月３日（水）こどもみらい館
　講師：京都市教育委員会体育健康教育室　副主任指導主事　長光 裕子 氏

・第三回「ダウン症児の理解」１２月１１日（火）京都テルサ
　講師：京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル保護者

・第四回「視覚障害・聴覚障害の理解」２月１９日（火）　京都市立北総合支援学校
　講師：京都市立北総合支援学校　育支援センター教員

(6)介助者派遣事業（通年）について

・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施。

・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載。

・毎週金曜日の登録事務の実施。３０年度については６６名が登録した。

４　子育てボランティアバンク事業

1　平成３０年度 事業目標

地域における子育て支援の風土づくりの一つとして、広く子育てに関心のある方にボランティアとして登録していただき、児童館や地域の子育ての場を支えるボランティアの人材を育成する。同時に、ボランティアを求める団体・施設からの情報も募集し、地域における子育てボランティア活動の活性化を図る。

ボランティア登録会員に対しては、活動のきっかけづくりとなる児童館ボランティア体験（年４回）、実際に役立つ技術を学ぶ講習会（年 2 回）、やんちゃフェスタなどのボランティアスタッフ体験（年 2 回）を実施し、児童館職員に対しては、施設職員に対してボランティア受入れの工夫を学ぶ研修会（年１回）を実施するとともに、登録会員と施設とをつなぐ、交流研修会も実施する。

2　平成３０年度 活動報告

(1)会員登録・募集情報の受付

登録会員数：３１３人　平成３１年３月３１日現在
（平成３０年度新規登録会員数は１２人）

募集情報掲載数：３０団体

(2)講習会、交流研修会の開催

・登録会員向けに講義と実技、募集団体の職員向け講義、登録会員同士の交流会を実施。

・登録会員がボランティア活動を始めるきっかけとなるよう、児童館でのボランティア体験（２箇所）「やんちゃフェスタ（第１部）・（第２部）」でのボランティア体験を実施。

[成果]

・ボランティア体験に初めて参加される方が増えた。
・未活動であった会員がボランティア体験に参加し、活動への意欲を高めることができた。

実施日	内　容	講師・施設	参加者数
6 月 28 日	ボランティア体験 ＜内容＞学童クラブ児童との遊びを通した関わりを児童館で体験する。	向上社児童館	2 人
10 月 13 日 10 月 17 日	ボランティア体験 ＜内容＞乳幼児親子対象の乳幼児クラブ活動への関わりと学童クラブ児童との遊びを通した関わりの､2 つの活動内容を各児童館で体験する。	紫野児童館 ももやま児童館	8 人
10 月 28 日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ 2018（第 1 部）のコーナースタッフとして「駄菓子・缶ジュース」「宝石すくい」各コーナーを担当。	梅小路公園	3 人
10 月 31 日	実技講習会 ＜内容＞バルーンアートの制作と実技の活かし方を学ぶ。	子育てボランティアバンク担当者	3 人
11 月 10 日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ 2018（第２部）のコーナースタッフとして､「バルーンアート」コーナーを担当。	みやこめっせ	5 人
12 月 14 日	会員向け講習会 ＜内容＞ボランティアについて、会員同士が意見を交換しながら交流する。	学童連盟参事	4 人
12 月 16 日	ボランティア体験 ＜内容＞ふぁみさぽまつりスタッフのサポート。親子連の来場者と触れあう。	こどもみらい館	4 人
1 月 14 日	施設向け研修会 ＜内容＞ 「ボランティアとともに広がる児童館の活動」	京都市 修学院第二児童館 館長小林久男氏	25 人

(3)広報活動
・ホームページの運営
登録方法の案内(オンライン登録を含む)と、ボランティア募集団体の活動内容を掲載。
・チラシ・ポスターの配布・掲示
・児童館・学童保育所へ講習会等のチラシ配布､「れんめいニューズレター」への掲載、やんちゃフェスタ等イベント時のチラシ配布

5　広報活動

1　平成３０年度 事業目標

・広報物については、読み手にとって親しみをもたれる誌面を目指し、常に誌面刷新の意識をもって活動を展開する。
・京都市児童館学童連盟の広報誌「キッズステーション」は、公益性を意識し、市民に対し児童館・学童保育所の活動をＰＲすることを目的に発行を行う。
・「れんめいニューズレター」は、職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行う。

・児童館・学童保育所の活動と当連盟の事業を市民に広くＰＲするため、ホームページの管理・更新を行う。また、各施設においてホームページをとおした広報を適切に実施していけるようにホームページ研修を行う。

２ 平成３０年度 活動報告

(1)委員会の開催（４回）…①６月４日・②１１月１６日・③２月１３日・④３月２２日

＊３回目の委員会ではキッズステーションの誌面検討を行った。

(2)広報誌「キッズステーション」の発行

①発行回数：年４回（４月・７月・１０月・１月発行）１２９号～１３２号

②発行部数：１回につき、約１６，０００部

③配付先　：各児童館・学童保育所　及び　育成推進課課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、報道関係、京都府立総合資料館、連盟理事・監事等（約９０箇所）

１３１号（１０月発行）より、市内１９箇所の図書館にも配布を拡大した。

〔主な記事〕

１２９号（４月）「児童館・学童保育所まつり」紹介　児童館の活動紹介

＊コラム「子どもの『主体的なやる気』はどのように育つか？」①

～周りのおとなが心がけたいこと～…伊藤崇達 氏

１３０号（７月）:「京都市の児童館、ホームページの紹介」

「京都やんちゃフェスタ２０１８　第１部」予告

「児童館・学童保育所まつり」の報告

「夏のオアシス　クールキッズステーション」について等

＊コラム「子どもの『主体的なやる気』はどのようにそだつか？」

後編　伊藤崇達 氏

１３１号（10月）:「京都やんちゃフェスタ２０１８　第１部」紹介

「京都やんちゃフェスタ２０１８　第２部」予告

「親子でニコニコ笑顔いっぱい」予告

＊コラム「子どもを育てるママたちの生きにくさについて」木塚勝豊 氏

１３２号（１月）:「やんちゃフェスタ２０１８　第１部、２部」報告

「親子でニコニコ笑顔いっぱい」報告

「ファミリーサポート事業」紹介

＊コラム「『現代日本の病巣』の中に生きる子どもたち」木塚勝豊 氏

※「キッズステーション」活用状況アンケートの実施

「キッズステーション」が効果的、かつ魅力的に情報を提供できているかを調査するためアンケートを実施した。

(3)職員情報誌「れんめいニューズレター」の発行

①発行回数：年１２回（毎月５日発行）　２６２号～２７３号

②発行方法：発行を知らせる全館所ファックスとアルファオフィスへ掲示、関係機関へ郵送。
③配付先　：各児童館・学童保育所等　（約２５箇所）
(4)ホームページ「京都市の児童館」の更新
児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業を市民に広くＰＲする。各館のおたよりやイベントのお知らせ情報や当連盟の事業に関する情報を掲載し、随時更新を行った。他にもキッズステーションの掲載や人材募集ページのリニューアルを行った。
「見る側にとって欲しい情報を得ることができるページ作り」等を盛り込んだ、児童館職員を対象としたホームページ研修を行った。２月２１日と２２日の２日間実施し、６４人が参加した。

６　京都やんちゃフェスタ２０１８　の開催

1　平成３０年度 事業目標

テーマ「遊びの復権・子どもの人権の尊重・ノーマライゼーションの推進」に基づき２部構成で開催する。
第１部は「梅小路公園に児童館がやってくる！！」をキャッチコピーに、「未来はぐくむ　ほっこり笑顔」をサブテーマに掲げ、それに基づいた企画を展開する。また、「子どもの参画」を意識した児童館・学童保育所のコーナー展開やステージでの司会体験等、子どもたちが活躍する場を要所で展開し、乳幼児から小学生、中高生の主体的な活動の場となるように取り組む。
第２部は主に乳幼児を対象とし、「子育て・子どもたちってこんなに素敵だよ！」をテーマに実施する。

2　平成３０年度 活動報告

(1)京都やんちゃフェスタ２０１８（第１部）実施内容
日　　時：平成３０年１０月２７日（土）　１０時～１５時３０分
会　　場：京都市梅小路公園
来場者数：約４５,０００人
内　　容：ブロック・ステージ（中央･大宮芝生）・フィールド企画の３構成で実施。
当日は晴天に恵まれ、数多くの親子連れで賑わうと共に、各種ブースで展開される遊びをとおした交流の場となった。また、今年度は「キッズゲルニカプロジェクト」に取り組み、市内の児童館・学童保育所の子どもたちが縦３．５×横７．８メートルのキャンバスに平和への願いを込めた京都らしい絵画を制作し、フェスタ当日に展示した。
○ブロック企画
児童館・学童保育所の活動をＰＲするため、遊びのコーナーを展開した。従来からの「子どもの参画」を意識した取組が行われ、子どもたちによる企画内容の紹介、順番待ちの参加者への対応、職員と同じような役割で企画の進行を行う等の工夫が見られた。

○ステージ企画
中央ステージでは、「オープニングセレモニー」（京都外大西高等学校チアリーディン

グ部)、「ライブトゥギャザー」「クッキーズコンサート」、「エンディング」の構成でプログラムを進行した。特に、やんちゃフェスタでは初披露となった京都外大西高等学校チアリーディング部によるオープニング演技は華やかで、フェスタのスタートを飾るに相応しい内容であった。

大宮芝生ステージでは、「ストリートライブ」「マクドナルドショー」「ゆるキャラタイム」等を展開した。中央ステージより小規模という特性を生かし、一体感あるプログラム進行を行うことができた。

○フィールド企画

実行委員会によるコーナーでは「子どもたちの絵画展示」「駄菓子･缶ジュース」「宝石すくい」「キッズゲルニカ」等のコーナーを展開し、各関係機関・団体・大学と連携して、京都市内の各大学のサークル・ゼミ等が、紙コップや輪ゴム、色画用紙を用いた工作コーナーを展開した。児童館・学童保育所だけでなく各種団体の協力を得ることで、来場者がより楽しむことができるようコーナーの展開工夫をすることができた。

＊「未来の自分ってどんな笑顔？」を絵画テーマに子どもたちの絵画作品を募集。
応募総数は１，８１０点となり、最優秀作品を京都やんちゃフェスタ２０１８のポスター・チラシに採用した。

(2)組織体制

実行委員会（フェスタに関わる重要事項の審議・決定、予算及び決算の承認等)、業務部会（実行委員会の事務処理、事業の円滑な推進)、企画委員会（フェスタの企画立案・調整、業務部に提案）を設置。

(3)委員会の開催

実行委員会…３回、業務部会…４回を開催。その他各担当者による会議を開催。

※京都やんちゃフェスタ（第２部）について

平成３０年１１月１０日（土)、みやこめっせにて開催。

ペンシルバルーンのコーナーやステージにて「子育て支援ステージ～児童館の『幼児クラブ』がやってくる♪～」を展開し、来場された乳幼児親子に児童館の活動を PR した。来場者数は約１３,０００人。

７　子育て支援のための普及事業・京都はぐくみ憲章の啓発活動

1　平成３０年度 事業目標

公益社団法人として、広く市民・府民に子育て支援の場や機会を設け、子育て家庭に対し親子が共に楽しめるひとときを提供するためにスタートした事業である。連盟としては、様々なイベントへの参加を含め、連盟の果たす役割をアピールする機会の増加に努める。また、京都市が定めた「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都はぐくみ憲章)」の普及啓発を図る。

2 平成３０年度 活動報告

①「夏のオアシス！クールキッズステーション」

実施期間：平成３０年7月1日～9月３０日 平日および土曜日の１０：００～１７：００

子育て親子や高齢者の方々を対象に、児童館を夏季の日中の居場所として提供し、京都市の節電対策に連携、各家庭での電力消費の削減に寄与するとことを目指して取り組んだ。

市内１３１箇所すべての児童館を地域における「クールスポット」と位置づけ、様々なイベントを実施することで、多様な年代の人々に児童館に親しんでもらうきっかけを作った。

②「子どもたちの願いを乗せて」京都市交通局・京都市観光 MICE 推進室の連携事業

市営交通のさらなる利用の促進と、児童館・学童クラブの取組をアピールするため、「子どもたちの願いを乗せて“京の七夕”」を京都市観光 MICE 推進室とも連携して開催した。

市内の児童館・学童保育所 135 施設、1,065 名の子どもたちが書いた願いごとの短冊を、平成 30 年 8 月 4 日（土）～8 月 12 日（日）の期間にわたり、地下鉄東西線二条城前駅・東山駅、烏丸線今出川駅の各構内に掲示し、多くの市民、観光客の方々に見ていただき、広く児童館・学童保育所を PR する機会となった。

③「京都岡崎レッドカーペット」

岡崎公園を中心とする岡崎エリア一帯で平成 30 年 9 月 15 日（土）～16 日（日）に開催された「京都岡崎ハレ舞台」には、四ノ宮児童館、たかつかさ児童館、御前児童館、御室児童館の子どもたちが雨も吹き飛ぶようなダンスパフォーマンスの披露を行い、来場者を魅了した。

④「親子でニコニコ笑顔いっぱい」~『子どもを共に育む京都市民憲章』をひろめましょう！~

日　　時：平成３０年１１月２４日（土）１１：００～１５：３０

場　　所：京都テルサ　テルサホール（京都市南区）

公演内容：「京都はぐくみ憲章ステージ」「きかんしゃトーマスキャラクターショー」

子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都はぐくみ憲章)の普及を目指し例年実施している。昨年度に続いて午前の部・午後の部の二回公演を実施し、今年度は、昨年度より３００人多い約１，３００人の親子が参加し、児童館の職員が観客の親子と一緒に手遊びや、京都はぐくみ憲章のテーマソングを合唱し、親子の絆を深め、憲章の理念と実践について理解を深めた。

⑤「第７回　京都子ども将棋交流大会」

日　　時：平成３１年２月９日（土）９：４０～１７：００

場　　所：しんらん交流館(京都市下京区)

洛和会ヘルスケアシステム主催、日本将棋連盟京都府支部連合会、当連盟共催で開催。参加者数は、亀岡市内の放課後児童会を利用する子どもたち１５名も加え、２８３名。予選リーグ・決勝トーナメントでは、日頃の児童館での将棋教室での練習の成果を発揮した。低学年の優勝者には、門川大作京都市長より「京都市長杯」、高学年の優勝者には、洛和会ヘルスケアシステム矢野一郎理事長より、「洛和会丸太町病院・洛和会音羽病院杯」が授与された。

８　大学と連携した学習支援事業

１ 平成３０年度 事業目標

京都市が、平成２９年３月に「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を策定し、その具体策として、「行政」「大学」「児童館」がそれぞれの強みを活かし、「三位一体」となる連携のもと、「全ての子ども，若者が無限の可能性を発揮できるまち・京都」を推進する。

本事業は,「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼、これらの課題に対して、身近な子どもの居場所である「児童館」を活用し、地域の子どもたちへの学習支援に取り組み、また、子どもたちにとって身近な「お兄さん、お姉さん」のような存在の大学生ボランティアの力を活かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化解消を図る。

２ 平成３０年度 活動報告

「事業の実施体制」

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学：大学生の派遣協力

大学生：子どもへの学習支援，相談支援

京都市：事業への助言，技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート、大学生派遣の窓口＝児童館との橋渡し

実施児童館について、昨年度モデル事業実施児童館６館所から４８館所へ拡大して実施した。協定締結大学以外の大学にも協力を依頼し、協定締結大学を含む関西圏３１大学に所属する大学生が児童の勉強や遊びの体験や児童の学習への生活習慣づけを支援した。平成３０年度では、学習支援事業に児童延べ３１,１７１人、学生ボランティア延べ１,９４０人の参加があり、事業の効果が認められた。

９　学童クラブ利用料算定事業

１ 平成３０年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、保護者世帯の課税状況を元に決定する応能負担制となっている。連盟事務局では市内児童館１３０館・学童保育所９所の利用料算定事務を、会員からの委託を受け、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進める。

２ 平成３０年度 活動報告

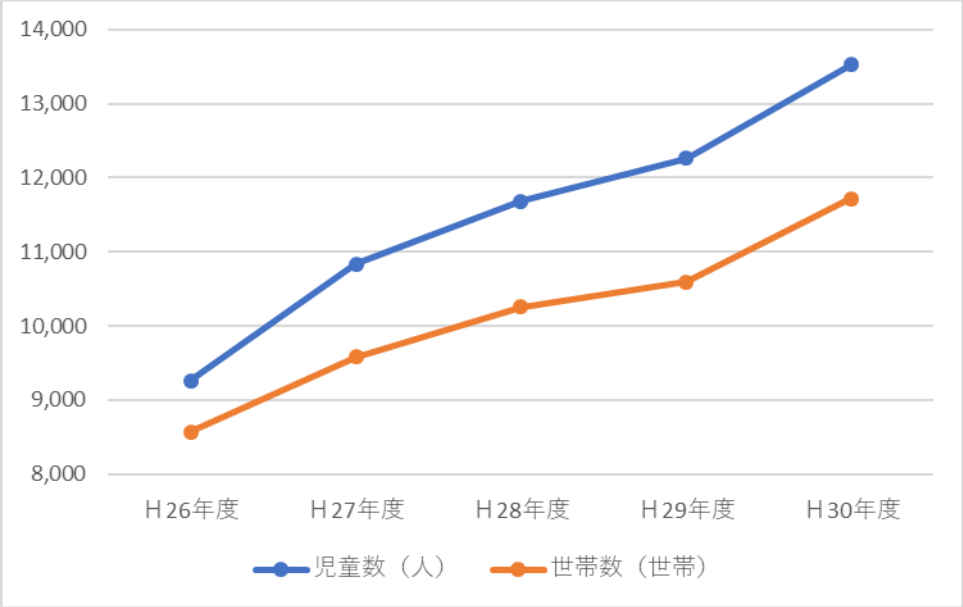
学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にあったが、「子ども子育て支援新制度」開始以降、利用対象児童が小学校６年生までに拡大したことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、平成 30 年度には登録児童数は 13,500 人を超えた。

施設における利用料徴収事務負担は増え続けているが、連盟事務局では児童館・学童保育所での事務が滞ることのないよう、算定事業の体制を年々強化してきた。平成 30 年度においても人員体制と機器の整備を増強し、迅速に利用料の決定通知を施設に届けられるよう努めた。

また、京都市において学童クラブ利用料に係る「寡婦（夫）控除の見なし適用」制度が実施されたことを受け、連盟では対象者の利用料金の再算定を行った。

学童クラブ登録児における利用料算定取扱件数の推移

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
児童数(人)	9,264	10,839	11,682	12,266	13,524
世帯数(世帯)	8,569	9,585	10,252	10,592	11,714



10　京都市有料指定袋無償配布事業

1　平成３０年度 事業目標

京都市においては「家庭ごみ有料指定袋制」実施にあたり、日常的に紙おむつを使用している市民に対する負担の公平性の原則に鑑み、紙おむつ使用世帯に対する特例措置として一新生児につき一回限り有料指定袋の無償配布を行っており、連盟は市環境政策局から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託している。

市内１３１箇所の全児童館でスムーズな配布事業を遂行すると共に、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業ならびに子育て支援の機能について、周知広報する。

2　平成３０年度 活動報告

(1)配布対象

京都市内の新生児を養育する、京都市から届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯。

(2)配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋（燃やすごみ用)「３０リットル袋４０枚」、または「２０リットル袋６０枚」を引換配布する。その際、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したＰＲ用のチラシ・乳幼児クラブの案内チラシなどを配布し、児童館の利用をＰＲした。

(3)引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局ごみ減量推進課へ報告する。平成３０年度の総引換え件数は、３０リットル1,１８９件、２０リットル９４５件であった。

11　無料職業紹介事業

1　平成３０年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材不足を改善し、安心・安全な児童館運営を支援するため、職業安定法に基づく無料職業紹介事業「児童館人材マッチングセンター」を開設、実施する。

2　平成３０年度 活動報告

平成 31 年 1 月 1 日付で、児童館人材マッチングセンターの事業開始申請に対して、厚生労働大臣の許可が下り、1 月 26 日付で事業を本格稼働した。

事業実績（期間:平成 31 年 1 月 26 日～3 月 31 日）

（1）求職登録　17 名

（2）求人登録　正職員求人　11 団体

臨時的任用職員求人　32 施設

（3）マッチング件数　正職員　5 名

臨時的任用職員 5 名　の採用が成立した。

マッチングセンターは求職者の働き方に対する希望をきめ細かく聞き取り、希望に応じた求人団体を紹介することに努めた。

12　読書好きの子どもになるための本の虫プロジェクト

1　平成３０年度 事業目標

故小野英一氏からの遺贈寄附金を活用し、読書好きな子どもの育成を目的とした事業を継続して実施する。

2　平成３０年度 活動報告

児童館における図書及び図書室備品を拡充するための資金を各児童館に配分した。
配分額　５,０９０,６００円。

13　京都市ファミリーサポート事業

1　平成３０年度 事業目標

・多様化する子育て支援のニーズに対応するため、提供会員の増加を推進する。
・提供会員の資質向上のためレベルアップ講習を拡充する。
・活動中の事故防止に努める。
・支部での入会申込の受付・活動依頼の受付・登録会及び講習会を開催し、市民の利便性の推進を図る。
・提供会員向けに支部交流会を開催し、支部を拠点とした提供会員のネットワークづくりを推進する。

2　平成３０年度 活動報告

・リーフレットをより詳しくわかりやすいものに刷新し、市内２１１箇所に約５,０００枚を配架した。
・提供会員に登録するための講習会の広報に力を入れ、年間５９名の提供・両方会員を獲得した。
・レベルアップ講習会を開催し、提供会員・両方会員の資質向上に努めた。
・緊急救命講習（実技）の受講を提供・両方会員に必修とし、年間５回の講習会と年間４回のレベルアップ講習会（合計９回）で対応し、事故防止に努めた。
・子どもの事故を未然に防ぎ、安心安全に活動を進めるため作成した。
　①　保存版　事前打ち合わせ時のチェックリスト
　②　保存版　ちょっとまって！その食べ物（事故防止啓発リーフレット）
　③　ふぁみさぽ通信「ヒヤリ・ハット事例特集号」
　を新たに登録される全会員に配布し、事故防止の注意喚起に努めた。
・本部と市内 14 か所の支部と京北地域において、登録会の開催や活動依頼の受付・相談等に対応し、地域に密着した子育て支援に取り組むとともに支部で地域別交流会を開催し提供会員のネットワークづくりを推進した。

(1)統計

会員種別	会員数	30 年度 新規入会者	30 年度 退会者	差引増減
依頼会員	5,732	692	△703	△11
提供会員	976	45	△40	5
両方会員	182	14	△17	△3
合計	6,890	751	△760	△9

（平成 31 年 3 月末現在 単位：人）

平成 30 年度　活動総数		7,839
＜活動件数　上位の内訳＞		
1	保育施設の迎え及び帰宅後の援助	2,512
2	子どもの習い事等の援助	1,273
3	学童クラブの迎え及び預かり	894

（単位：件）

(2)会議・講習会・交流会等実績

	内容	回数
地域リーダー会議	交流会開催の打ち合わせ・会報誌の企画 等	12 回
支部長会議	事業の総括	1 回
支部担当者会議	支部の業務説明	1 回
登録会 （本部 3 回・ 支部 42 回・京北 3 回）	依頼会員に登録するための登録会	48 回
講習会 （本部 2 回・支部 3 回）	提供・両方会員に登録するための講習会 （8 月の本部講習会は警報により中止）	4 回
レベルアップ講習（実技）	普通救命講習Ⅲ	4 回
レベルアップ講習（講義）	子どもの栄養と食生活	1 回
レベルアップ講習（講義）	支援の必要な子どもへの対応	1 回

交流会	開催日時	実施場所	参加人数
全体交流会 （レジンアクセサリー作り・意見交流・子ども くじ引き大会）	9 月 27 日	こどもみらい館 (第 1 研修室)	11 人
おしゃべりティータイム（支部と共催） （アイロンビーズ・簡単編み物・フラワーアレンジメント：提供会員・両方会員の意見交流）	11 月 1 日 11 月 9 日 11 月 20 日	西京児童館 大宅児童館 上賀茂児童館	27 人
ふぁみさぽまつり （マジックショー・カスタネット工作・缶バッジ・わなげゲーム・くつろぎの 5 つのコーナー）	12 月 22 日	こどもみらい館 (第 1 研修室)	165 人

(3)広報実績

	回数・部数	内容
会報誌「ふぁみさぽ通信」発行	3 回　24,200 部	全会員及び関係機関に配布
事故防止リーフレット発行 「ちょっとまって！！その食べ物」	約 760 部	新規会員登録する方に配布
ヒヤリ・ハット事例特集号	約 760 部	新規会員登録する方に配布
市民しんぶん掲載	全市版 4 回	講習会・交流会開催のお知らせ
提供会員募集の案内	京都市内図書館 5 回 こどもみらい館 5 回	講習会のお知らせチラシ配架
一般新聞掲載	7 回　京都新聞	講習会開催の案内・交流会開催のお知らせ・ヒヤリ・ハット事例集発行
冊子掲載「ワイヤーママ」	1 回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介
冊子掲載「ボランティアーズ」	3 回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介と提供会員の募集

Ⅱ　施設運営

1　児童館の運営

1　平成３０年度 事業目標

連盟が京都市から指定管理者として受託運営する８箇所の児童館は、地域の関係団体とも連携を密にし、地域における子育て支援の拠点として、市民の期待に応えられる施設運営に取り組んでいく。

2　平成３０年度 活動報告

		児 童 館 事 業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	・子育て家庭が地域で孤立しないよう保護者同士が交流し、つながりをもてる機会を作る。 ・子育て家庭に対し、関係機関等と連携し、広報活動を強化し、保護者のニーズの把握に努め、地域での暮らしを支えるネットワークを作る。	・子どもたちの個々の状況に応じた生活力獲得に向けた、指導・支援を推進する。 ・遊びを通して、自立心・協調心や判断力・行動力を育成する活動を推進する。
	成果	・乳幼児クラブ（登録制）は週３日、３クラス（０歳児・１歳児・２歳児以上親子）を継続して行うことで、ニーズに応え、子育て家庭が交流できる機会を生み出すことができた。 ・ランチタイムや子育て支援講座を開催することで、乳幼児クラブ登録者を中心にネットワーク構築を促すきっかけづくりをすることができた。	・個人懇談を継続することで、個々の状況に応じた指導・支援を推進することができた。 ・「わくわく子どもマーケット」や「感謝の会」等、各行事に向けた取組を通して、自立心・協調心や判断力・行動力等を育成することができた。
七条第三児童館	目標	・アンケートを基とした利用者のニーズに合わせた乳幼児クラブなど取組の充実と、利用者が楽しく気軽に話せる関係をつくる。 ・児童館が主体となり行事を行うことで地域との多様なつながりをつくりだす。 ・親となる児童への学びや親自身が児童に関心をもつ機会をつくり、子育ての意義を伝える。	・基本的生活習慣や社会性がつくように指導する。 ・子どもたちが主体となれる取組を増やし、生活場面に応じた判断と行動力を育む。 ・高学年の場づくりとして友だちや保護者、職員との関係を深められる取組を常に意識する。

	成果	・乳幼児クラブや子育て講座の定員数に余裕を持つことで、参加しやすい環境を整えることができた。 ・小学生対象の登録制クラブでは、アクトクラブやオニムクラブ等、ニーズを取り入れながら職員の得意分野を生かして子どもたちの興味を広げることができた。 ・児童館まつりや防災まつり等をとおして地域と連携し、地域の拠点としての役割を果たすことができた。 ・中高生と赤ちゃんとの交流事業等で、取組の趣旨を丁寧に伝えることにより、七条中学校と今まで以上の連携を図ることができた。	・学習時間参加への声掛けを丁寧に行うことで、習慣化することができた。 ・おやつの準備や掃除等は、縦割りの班活動で取り組むことで、異年齢同士が協力し合う姿が多く見られた。 ・夏祭りや３年生合宿では、子どもたちのやりたいことを事前に話し合うことで、子どもが主体となるプログラムを展開することができた。 ・高学年の居場所づくりとして、生活時間を低学年と分けて過ごせるよう工夫することで、年度末まで利用する児童が多かった。
今熊野児童館	目標	・友達や仲間と遊ぶ楽しさを伝える。 ・集団遊びの大切さを教え、異年齢の子どもたちと遊べるように働き掛ける。 ・異年齢同士の関わりの中で下級生への思いやりなどを育めるように働き掛ける。 ・子どもたちが意欲的に参加できる行事を企画し、児童館が多くの子どもにとっての居場所となるよう努める。 ・高学年や中高生との関わりを大切に様々な活動に結びつくよう導く。 ・地域の方に気軽に児童館を利用してもらえるような行事や取組を企画し、子どもと地域の方が顔を合わせて交流する機会をつくる。	・低学年～高学年までの縦割りの集団生活の中で人を労わる心を育み、社会性を身につけるとともに子どもたちが主体的に行動できるよう支援する。 ・様々な遊びや取組みやクラブ活動を通じ、遊ぶ力を育て心身ともに成長を促す。 ・ゲームやスポーツ大会を通じ個々の能力の向上と仲間との絆を深められるよう援助する。 ・子どもと保護者ともに安心安全な生活の場となるよう支援する。
	成果	・来館児童の利用回数が増えるよう日頃から声掛けを行うことで、クラブ活動以外にも児童館行事や取組に参加することが増えた。 ・異年齢同士が行事や様々な取組の中で関わりを持つことで、下級生の憧れの存在になり、高学年は下級生に思いやりを持ち関わるなど相互作用が見られた。	・おやつ、終わりの会、誕生日会等について、縦割りの班で活動することで、社会性や思いやりの心や責任感を身につけ、リーダー育成にもつながった。 ・様々なゲームやスポーツに挑戦することで、苦手意識を克服し得意な部分を伸ばして自信を持ち、心身ともに逞しくなっていく様子が見られた。

		・高学年は、行事活動を楽しみにすると同時に自分達の力を発揮しようと活動に参加していた。 ・地域の方々との取組では、ポスターやニュースなどで事前にお知らせすることで、普段から馴染みのある方に加えて初めての方の参加や利用が見られた。	・勝ち負けを経験しそれを励みに向上心を培い仲間の長所を認め、励ます信頼関係を育むことができた。 ・子どもたちの様々な力が育つ様子を保護者にも感じてもらうことで、安心して預けてもらえる場とすることができた。
四ノ宮児童館	目標	・地域に根ざし、地域に親しまれ、頼りにされる児童館を目指す。 ・地域の各種団体と連携し、地域の子育て支援に貢献する。	・異年齢集団での生活や遊びを通して社会性を身につけ、生きる力を育てる。 ・児童、保護者との信頼関係を築き、個々の況に合わせた家庭支援を行う。
	成果	・乳幼児クラブや子育てパワーアップ講座、子育て相談の取組み等を充実させることで、保護者のニーズに合わせた児童館運営を行うことができた。 ・地域の取組に積極的に参加することで、より多くの方に児童館の活動を広めることができた。 ・今年度より開始したお習字クラブでは、毎月、作品を京都新聞へ応募し新聞に掲載してもらうことで、活動の様子を広く知ってもらう機会となり、参加児童にとっての励みとなった。	・高学年児童が増えたことで、新たな課題が見えた１年であったが、異年齢同士の活動を通して、自主性と協調性が芽生え、学童クラブならではの関係を構築することができた。 ・家庭や小学校と連携し、情報を共有することで、個々の状況に応じた支援を行うことができた。
梅津北児童館	目標	・利用者からの多種多様なニーズに応え、地域全体で子どもを育てていけるような中核的役割を果たし、地域に寄り添った児童館を目指す。	・学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立してゆく。 ・縦割り集団としての連帯感を深め、互いの違いを認め尊重し合える関係を築く。 ・個々の状況に応じた援助の下、自主・自立に向け、生きる力を育む。家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援する。

	成果	・乳幼児クラブや広場活動の充実及び地域との連携事業により、児童館への理解が促進され、多様なネットワークの構築や地域ボランティアの活動の場として認識が深まった。 ・中学校と連携することにより、思春期児童を対象とした活動を充実させることができ、日常の居場所・拠り所としての活用に繋げることができた。 ・ニーズや実態の把握方法を増やしたことで、より細かい必要な支援や要望に沿った活動に繋げることができた。	・職員間の共通理解や保護者・小学校との情報共有の下、個々の状況に応じた支援を行ったことで、児童の心身の安定に繋がった。 ・縦割りを意識した班活動や学年別グループ等における活動、中・高学年の生活を意識した特化した活動により、自主性や自己肯定感が高まり、社会性の養成に繋がった。
西京極西児童館	目標	・来館者にとって居心地の良い場所を提供する。 ・職員の個性を生かした計画、立案をする。 ・地域、関係機関との連携を密にする。	・生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がける。 ・クラブ終了後の生活を見据えた活動を行う。 ・保護者との信頼関係を大切にする。
	成果	・０歳児を対象とした乳幼児クラブは、これまで半年ごとの月齢に分けて実施していたが、今年度は月齢の幅を１年に広めて実施した。その結果、日程選択の幅が広がると共に、他の子どもを見てこれからの自身の子どもの成長をイメージすることで、自身の子どもの成長過程を振り返ることができた。さらに、保護者同士による子育ての相談も生まれた。 ・各種行事について、館内だけでなく地域に向けて広報していくことで、多世代が参加する行事につながった。	・クラス別活動として集団遊びや目標決め等を充実させた結果、少人数制により子どもたちが意見を述べやすくなり、積極性が育ち、職員の目も行き届きやすくなった。 ・高学年児童が自主的、主体的に自分たちの生活を管理することを目的に高学年会議を行った結果、自らの行動に責任を持つ姿が見られ、低学年が楽しめるような活動の提案を行うなど、優しい気持ちを育むことができた。 ・保護者個人懇談会を開催し、それぞれの家庭や児童館での子どもの様子を共有することができた。また、親子交流会を実施することで気軽に話せる関係が少しずつ定着した。

南浜児童館	目標	・遊びを通じ子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養う。 ・地域の各種団体と連携し子育て家庭の支援に力を入れると共に、地域の方々との交流を図る。 ・中高生の居場所作りにも力を入れる。	・子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させる。 ・また、集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養う。
	成果	・遊び・行事を通じ、友だち関係の構築を図ることができた。 ・各種団体と連携を取りながら行事に取り組み、昨年度に引き続き学習支援などの取組にも力を入れることができた。 ・中高生クラブが軌道に乗るように参加への声掛けを積極的に行った。その結果、ボランティア活動について時間が許す限り参加してくれた。年が明けると受験等で忙しくなり次に引継ぐことが難しくなるため、早めに引継ぎを行いたい。	・保護者・学校との連携を密に行い、地域とのつながりを意識することで、行事を通じ学童クラブ登録児童と地域住民との交流を促すことができた。 ・今年度から、長期休業中はクラスを３クラスに分け集団生活の指導に力を入れた。 ・新設された育成室をより良く活用するために、天気の良い日は簀子を敷いて自由に行き来できるようにすることで、子どもたちの活動の場が広がった。 ・新設された育成室ができた分、園庭が狭くなったが、曜日ごとに遊びの内容を決め、学年ごと・クラス毎に工夫し、外遊びを楽しむことができた。
横大路児童館	目標	・子育て支援事業の充実を図る。 ・伸び伸びと活動させる中にも規律を重視する。 ・各種地域団体との連携を密にする。 ・しもよこっ子開催団体との連携を強化する。	・児童館の決まりを学び身につける。 ・規律のある生活習慣を身につける。 ・手洗い、うがいを徹底する。 ・登下館の際の安全指導を徹底する。
	成果	・登録制の乳幼児クラブは定員を超える申込みがあり、ニーズに沿った取組を行うことができた。また、ベビーマッサージについても定員超えの登録希望があり、２日目を設定しなければならないほど人気が高いものとなった。 ・ママダンスやマミーズヨガ等の癒し効果が期待できる事業は、運動不足解消も兼ねていることから好評であった。	・児童館目標の朗読、月のきまりの唱和をお帰りの会の際に実践することで、決まりやルールを遵守できるようになった。 ・手洗い、うがいの指導等を行い、規律のある生活習慣を身に付けることができた。 ・遊びやクラブ活動を通じて、遊びの中にもルールやマナーがあること、守らないと怪我をする場合があること、みんなとの調和を図らないと団体行動ができないこと等を学ぶ機会を提供することができた。

		・一寸ぼうしの広場等の事業を通じて活動場所を提供し、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を図ることができた。	

2　つどいの広場運営事業

1　平成３０年度 事業目標

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンターの運営を受託して実施する事業である。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に０歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況の中で、子育て親子の孤立化を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営にあたって、以下の目標を掲げて事業を実施する。

(1)子育て親子同士が交流を促進出来るようなイベントを継続的に実施する。

(2)地域との交流を重視し、洛西地域の近隣施設との連携の下、子育て関連情報発信の場とする。

(3)アットホームな雰囲気の中で、子育ての悩みや相談を気軽に専門知識を持つアドバイザーに対して打ち明けられる態勢づくりをする。

所 在 地：　京都市西京区大原野東竹の里町三丁目１番地
　　洛西東竹の里市営住宅集会所（中央）内
利用対象：　市内の子育て中の親子（主に乳幼児を育てる親とその子）
開設時間：　午前１０時から午後４時まで
休 所 日：　水曜日、日曜日、祝日、年末年始。
利用料金：　無料（ただし、材料代等の実費負担を必要とする場合がある。）

2　平成３０年度 活動報告

平成30年度ののこちゃん広場では、複数の子育て親子のふれ合いの場として、「絵本の日(読み聞かせと手遊び・パネルシアター等の組み合わせ)」を毎週２回、「一緒に遊ぼう(家庭においても親子が一緒に楽しめる遊びを紹介する取り組み)」を、月１回実施した。

赤ちゃんの頃から絵本に親しむ土壌を作り、身体を使った遊びをあまり知らない保護者に対し、子どもとスキンシップをとりながら安全に遊ぶ方法を伝える事業の中で、保護者同士が気軽に言葉を交わし、親子共に仲間を増やしていくという流れが生まれた。

また、乳幼児連れの保護者だけでなく、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室では、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作れた。地域の中で様々な年齢の人たちが子育て世代を気にかけ、いたわりあえる風土を培うように、地元に対して働きかけた。

さらに、子育て支援として、子育てに疲れを感じていたり、子どもの発達に対する悩みを持つなど、様々な事情を抱える親子のケースに適切に対応できるようスキルアップに努め、洛西子育て支援センターをはじめ、地区の子育て関連の諸団体との連携に努めた。